

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		たいよう 篠崎				集計日	令和 6年 9月 1日
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		規定の利用定員に沿った支援室のスペースを確保しています。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		規定に従った職員数の配置を行っています。	今後、PT、OTなども配置を行えるようにしております。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		バギーが室内に入れるようにしており、トイレも使えるようにしております。	視覚的に設備が判別出来るよう工夫を行っていきます。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		清掃・消毒を毎日行い、空気清浄機や加湿器を設置する事で清潔を保っています。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	1	個別に対応出来るよう、仕切りを使いスペースを確保しております。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		業務改善に向け、職員と話し合う機会を設け振り返れるようにしております。	頻繁に行えるよう定期的に行ってまいります。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価表に限らず、伺う機会がある際に要望をいただき改善に繋げるようにしております。	意向に反映するまでに時間がかかってしまう場合があるので、迅速に対応出来るものは直ぐに行う様に心がけます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		意見や要望を把握する機会を設けております。	業務改善に向けて話し合いを設けて、迅速に行えるようにしてまいります。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		保護者様よりの評価で業務改善に繋げております。	保護者評価以外での外部評価は行っていません。今後必要と判断された場合は迅速に対応します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		職員の資質向上に向けた研修の受講を進めています。ABAや強度行動障害の研修など継続的に参加しています。	参加人数が限られているため、今後新人職員やベテラン職員での振り返りなど継続して行っていきます。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		ホームページ上で公表しております。教室内にも見られるように設置しております。	確認しやすいよう工夫を行います。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者様、ご利用者様共にニーズの確認を行い、5領域に沿った内容の計画書を作成しております。	変更点があれば速やかに新しいものを作成するようにします	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		計画書を作成するにあたり、関係職員全員で作成を行い、共通理解の元検討を行っております。	迅速な検討と、内容を精査したものを作成出来るよう行っていきます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画に沿った支援が行われているか、定期的に支援の確認を行っています。	定期的に行えるようにします。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		ツールを用いたアセスメントを行っております。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		計画は、5領域に沿った、本人支援、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携を踏まえながら作成しています。	本人支援に偏りがちになるため、家族支援・移行支援・地域連携支援に精通する方との交流を行い、提供出来るサービスの幅と内容の確認を行っています。サービス提供には至っていませんが、連携を図っています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		プログラム内容をチームで検討しています。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		固定化しないよう、季節に応じた内容で行っています。	今後も増やしていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別・集団活動を組み合わせ計画を作成しております。	活動内容の充実を図るため、今後研修に参加をし、増やしていく予定です。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		共通した支援を行うためにも、事前に内容を確認しながら支援にあたっています。	一部の職員に偏る事があるため、全体での検討が行えるようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		終了後は一日の振り返りを行っています。また、他職員にも情報提供が行えるよう、ノートや記録を活用しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援の記録をスムーズにとれるようにし、検証が行えるよう工夫を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的に行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		基本活動に沿った内容の活動を取り入れ行っています。	利用される方により、活動内容が制限される事もありますが、提供出来るようにいたします。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		利用中に自己決定を行える機会を設けています。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者と担当をしている職員が同席しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		連携を図っています。発達支援センターや相談支援事業所、育成室等と連携を図っています。	今後も連携が図れる機関と体制を整え、増やしていく予定です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校との情報共有を図り、適切に連絡調整を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	就学前児童の情報は利用されていた事業所に確認を行っています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		各事業所に提供しています。	現在卒業された方はいらっしゃらないので、今後予定されている方の情報提供を行っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		児童発達支援センターと連携を取っています。センター主催の研修に年間を通して参加をし、司会・進行など行っています。	参加人数が少ないため、今後は増やしていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	地域に出向き、交流出来るようにしています。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	参加しています。また、連絡会などにも参加しています。	今後も定期的に参加出来る様調整していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や連絡時などに状況を説明し、共通理解を思っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	研修会の案内をお知らせしています。	今後とも情報提供を行っていきます。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		丁寧な説明を心掛けています。	理解されているかの再確認を行う必要があるか確認をしていきます。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		意思の尊重を行っています。	面談以外の意向確認が出来るよう機会を設けます。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		同意を得ています		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご相談があった場合は、専門的な判断を行えるよう、嘱託医や専門職に相談を行っております。	口頭でもフィードバックになっている事が多いので、書面に残すようにしていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	1	保護者の参加できるイベントを行い、交流が行えるようにしました。	今後とも機会を増やしていきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速に対応出来るよう心がけています。	苦情があった場合は事業所だけにとどまらず、本部との対応を行うため、対応に時間がかかっている事もあったので、迅速行う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的に通信誌、SNSでの活動内容を提供しています。	今後とも定期的に情報の提供を行っていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		取り扱いに十分留意しており、誓約書をお交わしています。	不適切な事象があった場合には公表を行っていくようにします。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		配慮を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	行う予定でいます。	現時点では事業所自体での招待は保護者のみに限定して行っています。今後検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを作成し、常時閲覧出来るように設置をしています。感染症の発生訓練を実施しました。	今後も各マニュアルの確認と職員・家族への周知を行い、訓練を行っていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCP策定しており、計画に沿った内容の訓練を行っています。	今後とも定期的に行っていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		アセスメントシートへ内容記載、個別ファイルでの管理を行い、服薬の変更や症状の発生時対応をフローチャート化しています。	今後とも対応が迅速に行えるよう確認を行います。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アセスメントシートに記載を行い、全体での周知と対応が行えるようにしています。嘱託医に内容の確認を行っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		防火管理や防犯などの研修に参加しており、安全に配慮を行っています。	今後とも定期的な研修を行っていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		緊急時の対応が行えるよう、ご家族へ取り組み内容を提供しております。	今後とも連携が図れるよう取り組みを強化していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを作成し、事業所内での再発防止を行っています。	ケースごとに共有出来るような工夫を行います。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会の設立をし、定期的な研修を行っています。	外部研修の参加を今後とも増やしていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		身体拘束適正化委員会を設立し、委員会で身体拘束の可能性のある児童に関して組織的に検討を行っています。	今後とも組織的な検討と、ご家族への十分な説明を行っていきます。	